「万国之津梁」沖縄をめざして

研究会通信

第 11 号／2019 年 2 月 5 日
「沖縄・国際物流拠点形成研究会」
連絡先／本研究会アドバイザー
下道直紀 ☎090-7980-0850
e-mail：shimomichi@yacht.ocn.ne.jp

■「中空列柱 沖縄の家」報告・発表会を開く—２月２日

沖縄・国際物流拠点形成研究会（主宰：齋藤勁元衆議院議員）は、研究会『提言』の意見交換会で提起された仮称「沖縄の家」構想を具体化する「中空列柱 沖縄の家」の報告・発表会を、2 月 2 日、那覇市で開きました。

◆すべて材木を使った本格的木造住宅

この構想は「南九州から木材を沖縄に移入し、沖縄で亜熱帯気候に適し、地震・台風・白アリにも強い本格的な木造住宅を開発し、県内に普及させるだけでなく、東アジア各国にも輸出する」というもの。

2 年かがりで調査・研究し、県内の住宅建築関係者の手で、**「中空列柱構造壁面体」**の工法を採用して、**「中空列柱 沖縄の家」**の名称で（商標登録を準備中）、本格的な木造住宅を建築していくことになりました（写真）。

◆ 沖縄の経済の自立を求めて —安心・安全の本格的木造住宅造り

本研究会を主宰する齋藤勁元衆議院議員が冒頭のあいさつで、「中空列柱 沖縄の家」は「安心、安全を第一」にした本格的木造住宅造りだが、そもそも、この構想は「沖縄と九州・本土、東アジアの物流を活性化させようというのが目的」であり、それは「沖縄の経済の自立の追求である」と提起しました。

報告・発表会では、沖縄の振興開発の歩みを研究している**江上能義（たかよし）先生**＝琉球大学名誉教授・早稲田大学名誉教授＝から記念講演をしていただきました。

■ 沖縄の経済的自立の軌跡～格差是正から東アジアに向けたフロントランナーに —江上能義先生のお話（要旨）

沖縄が本土復帰して 5 年後に早稲田大学（東京）から琉球大学に赴任した。2003 年に早大に戻り、沖縄から縁が切れるかと思ったら、早大では、戦後日本の国土開発の根幹となった全国総合開発計画を研究していたため、全総を策定した下河辺敦さん（故人／元国土事務次官）の業績のひとつの、沖縄の開発に係る調査資料を（思いがけず）研究することになった。

下河辺さんは、沖縄に心を寄せ、普天間基地問題では当時の大田昌秀県知事と橋本龍太郎総理とを仲介することになる人物である。

◆ 独立するぐらいの気概を持って

下河辺さんは沖縄の本土復帰が取りざたされていた 1969 年に、当時の琉球政府に関わった。琉球政府の若い人たちが「自分たちは独立したい」と言うので、「それは良い。独立したらよい」と答えたら、琉球政府側は驚いていたという。「独立するぐらいの気概があった方がよい」との思いから、「そう言った」と、下河辺さんは振り返っていた。そこで琉球政府側に、本土復帰したら、**「独立する気概」**を持って、どのようにしたいのか書いてほしいと求めて、できあがったのが「沖縄長期経済開発計画」（1970 年 7 月）。そこには、**「自立的発展」**という言葉が何度も出てくる。その中身が、新全総計画の中に盛り込まれた。

◆ダイバーシティ＝多様性＝を尊重

1997 年から沖縄振興開発に関わったのが安達俊雄氏（内閣府沖縄振興局長）。沖縄のフリーゾーンや情報特区などの施策を打ち出す。地域が地域らしい施策を進めることが、日本全体にとってもプラスになるという考えから「沖縄 21 世紀プラン」を策定し、沖縄の自立的発展の計画を打ち出す。いわば**ダイバーシティ（diversity）多様性**の尊重である。

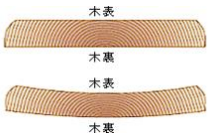
その後、大田県政の国際都市形成構想に対し、政府が全面的にバックアップする。沖縄の個性を活かし、日本のフロントランナーにしていくという考え方だった。今、沖縄県の「21 世紀ビジョン」として実行されている。

■「中空列柱構造壁面体」工法

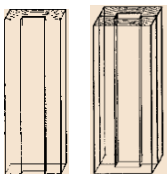
続いて、本題の**「中空列柱壁面体」**の工法と**「中空列柱 沖縄の家」**および同事業の展開についての説明に入りました。

◆木の特質を利用

木には木表（樹皮に近い方）と木裏（年輪の中心に近い方）があり、収縮率は木表と木裏では異なり、水分の放出が早い木表の収縮率は木裏の約２倍で、そのため木表側に反る性質があります（**右図**）。



そこで、角材の木表側の中心部に**凹型の溝**を掘って、木表側を貼り合せると、角材の柱に**「中空」＝空気層**ができ、木の乾燥を促進させることができます（**右図参照**）。



そのような無垢木材の特質のヒビ割れ、反り、収縮などを、乾燥技術と木質材の切削・接着加工など集成加工技術を用いて防止し、集成加工柱に空気層（中空）を取り入れた**「中空列柱構造壁面体」（右上図）**を使用します。その列柱壁面体を柱と柱の間に組み込んで（**右下写真**）がっちりした家となります。壁面体の組み込みから棟上げまで短期間で終了（その結果、建築費を安くすることができます）。事前に、列柱壁面体や土台、柱、梁、桁、屋根材などを製材・プレカットして、それを建築現場に持ち込んで建築する工法なので、**離島でも、海外でも**短期に建築することができます。

◆地震・台風に強く、人に優しい家に

地震と台風に強く、すべて木材を使用し、調湿性、断熱性、吸遮（しゃ）音性は抜群で、人に優しく、快適な居住環境を保ちます。

≪質疑≫

質問）県内では、中空列柱工法の材木のプレカットはできないのか。

答）中空列柱壁面体の「柱」は九州の木工所で製作し、それを沖縄に持ち込み「列柱壁面体」を製作する。土台や柱、梁、桁などは、素材（材木）は九州の製材所で製材し、沖縄に持ち込み、プレカットする。近い将来、原木を移入し、乾燥・製材からプレカットまで沖縄で行う体制を、ぜひ、つくりたい。

質問）木造住宅の寿命はどれくらいか？

答）普通なら 50 年、100 年、リフォームをしやすい。

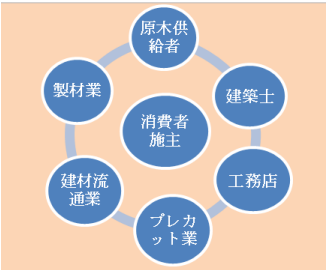
質問）防火対策はどうか。

答）木の特質として、燃えにくく、燃え尽きにくい。防火性能を備え、建築確認を行う。

質問）建築費はどれくらいか。

答）建築工期が超短期となり、建築費が安くできる。普通の６割、７割程度で収まる。

■「中空列柱 沖縄の家」事業グループ形成



本事業は、原木供給、製材プレカット、建材流通・輸送などの業者と設計士、工務店（大工）、消費者（施主）の連携のもと、ゆるやかな「中空列柱 沖縄の家」事業グループ形成し（**近く発足**させ）、事業を展開していきます。活動としては、**木造住宅の良さの啓発活動を重視**します。

■まとめ（齋藤勁主宰者）……沖縄では、戦前は木造住宅だったが、戦後、コンクリート住宅が急増。が、それは亜熱帯気候に適した住宅なのか。過去に思いを馳せて、木造住宅に注目し、住まいを造ることが問われている。その事業が「沖縄の自立した経済」となっていくのではないか、と考える。多くの方々に協力していただきたい。　◆◇◆◇◆◇◆